

平成27年度 第3回 宇都宮市自転車のまち推進協議会

日 時 平成28年1月19日（火）午前10時00分から正午まで

場 所 宇都宮市災害対策本部室

出席者 別紙名簿参照

内 容 1 開会

2 挨拶

3 議事

(1) 施策体系について

(2) 評価指標について

4 閉会

【主な発言・意見】

議事

(1) 【施策体系について】

<古池会長>

- ・事務局より、後期計画における拡充事業などの説明を頂いた。
- ・自転車のルールやマナーに係る交通安全対策は、交通安全協議会においても協議されており、庁内関係課が連携しながら進めていく姿勢は評価できる。

<三宅委員>

- ・マナーの向上に関して、子どもたちを対象に交通安全教室が開催されているが、高齢者のマナーの悪さが見受けられる上、事故の割合も高いことから、高齢者に対して何らかの取り組みはあるか。
- ・宇都宮が日本一マナーの良いまちになるよう努めていただきたい。

<事務局>

- ・高齢者に対しては、これまでも自転車シミュレーターを活用した自転車教室やヘルメットの利用促進等に取り組んできた。

<古池会長>

- ・自転車の事故については、高校生の事故も大変多いことから、スケアードストレート方式の交通安全教室を学校で実施しているところである。生活安心課において、その教室

に地元の高齢者も参加頂く計画を検討している。

<古倉アドバイザー>

- ・高齢者になるほど遵守率が高いことから、交通安全教室を受講すれば守ってくれる可能性は高いので、高齢者に対する交通安全教室の開催もぜひお願いしたい。また、ルールを知っていても守らない層があることから、守らせるための講習会も必要だ。

<古池会長>

- ・高齢者は呼びかければ多くの人が出てきてくれるが、出てこない方々にどのように伝えていくか考える必要がある。
- ・若い人は、知っていても守らない人がいる。知っていることを守るようにしていく流れをつくりたい。

<斎藤委員・河合委員>

- ・資料2の「安全」の取組内容で、「子ども自転車免許事業として小学4年生に対する学科及び実技試験の実施に加え、交通ルールの振り返り学習を継続的に行うなど交通安全教室の充実を図る」とあるが、小学4年生からではなく幼稚園生から学ばせる仕組みを作ってはどうか。幼稚園生を対象に行えば保護者も講習に参加することが期待されるため、年齢層の高い方々に対しても交通マナーを啓発できると考える。

<事務局>

- ・事業を拡充する際の、参考とさせていただく。

<古池会長>

- ・自転車のルール・マナーの意識を高めるため、講習会を積極的に実施してルール・マナーの啓発に取り組んでいただきたい。そうした中で、講習会に参加しない高齢者に対して、どのようにルールやマナーを周知していくかが課題となってくる。

<古倉アドバイザー>

- ・交通ルールやマナーが周知されてきている中、守らない人の数が多くなっており、そのような人は、講習会などにも参加しない傾向にある。講習会に参加したくなる方法についてアンケートを行った結果、「駐輪場の無料券やスーパーなどでの割引券の発行」があれば、参加したいと回答する人が多かったため、特典を付けることも方法の一つであると考えられる。また、交通ルールを守らない場合に被る損失や、交差点における具体的な事故データなどを自転車マップに掲載し、ルール・マナーの啓発を図ってみてはどうか。
- ・ヘルメットやレンタサイクルの利用促進のため、ヘルメット着用者へのレンタサイクル

の割引なども方法の一つかもしれない。

- ・事故率に関して、自動車事故が自転車事故の倍であるということから、自転車は危険ではないことをより多くの方々にPRしていく必要がある。

<平野委員（森崎委員代理）>

- ・「安全」に関する取組にあたっては、所管課と十分な連携を図りながらPRの強化を図っていただきたい。

<古池会長>

- ・自転車ネットワーク路線の位置付けにあたっては、国や県との連携を図りながら検討を進めていき、PR活動にも取り組んでいただきたい。

<屋代委員（黒岩委員代理）>

- ・市と連携しながらネットワークづくりに取り組んでいき、整備の延長に努めていきたい。

<古池会長>

- ・自転車通行量の多い生活道路において、歩行者や自動車との接触が危惧される箇所があるため整備を検討していただきたい。また、そのような自転車通行量の多い生活道路を自転車ネットワーク路線に追加してはどうか。

<事務局>

- ・整備状況や実態調査などを踏まえ、自転車ネットワーク路線への追加を検討していく。

<船木委員>

- ・バスの運転手目線からすると、専用通行帯の全面を青で塗る手法は視覚的に圧迫感を感じるため、矢羽根などの手法で整備を推進していただきたい。

<古池会長>

- ・自転車の安全な走行空間の確保に向けて、路肩の凸凹の解消にも取り組んでいただきたい。

<事務局>

- ・道路状況に応じながら整備を進めていく。

< 刑部委員 >

- ・資料2の「快適」の取組に「駐輪環境の充実」とあるが、中心市街地の放置自転車対策も兼ねて空きスペースを効果的に活用した簡易的な駐輪場の整備も取り入れてはどうか。

< 古池会長 >

- ・オリオン通りに駐輪ラックを設置してはどうか。

< 事務局 >

- ・駐輪ニーズを捉えながら、駐輪場整備を進めていく。

< 柿沼委員 >

- ・資料2の「楽しく」の取組内容で、「JR宇都宮駅からジャパンカップコースを結ぶルートに案内誘導のサインや路面標示を検討する」とあるが、この取組はサイクリストに対して非常に親切であり評価できると考える。そうした中で、ジャパンカップコースまでのルート案については、交通量の多い大通りを避けた安全で快適なコースの設定を検討してほしい。
- ・シクロクロスなど、オフロードのイベントも最近人気が上がってきている。お子様の参加も多く、親としては公道を走るロードより目の届く範囲のオフロードの方が良いという考えもあるようだ。
- ・ただ、山の中はハイカーとの棲み分けもあり、練習するフィールドがない。より多くの方々に自転車の楽しさを知ってもらうため、ジャパンカップコースの周辺に、オフロードコースや子ども向けコースなどの整備を検討していただきたい。

< 古池会長 >

- ・整備については、事務局の道路建設課が担当だ。示唆に富んだ意見を頂いた。検討をお願いしたい。

< 大島委員 >

- ・UCIワールドツアーを目指すにあたり、観戦環境の向上が必要不可欠であるため、早急に大規模駐車場駐輪場整備を進める必要があると考える。自転車レースの都市間競争も激しくなっていることから、ぜひとも平成28年度から重点的に取り組んでほしい。

< 古池会長 >

- ・他都市の状況を踏まえると、本市においてもより走行・観戦環境を向上させるために基

盤整備が必要だ。本市のイメージアップにもつながることから、事務局だけではなく市役所全体で取り組んでほしい。

< 刑部委員 >

- ・自転車のまちとしてPRしていくにあたり、「自転車憲章」と「自転車都市宣言」を整理する必要があるのではないかと。

< 相馬委員 >

- ・資料2の「楽しく」の取組内容において、「自転車の日を設定する」とあるが、日にちに関しては、自転車月間推進協議会が設定した5月5日にして対外的な発信をしてはどうか。JRや東武の駅において、市外から来た方に「自転車のまち」を醸し出せるよう市内と企業が連携して取り組んでほしい。
- ・また、那須ブルーゼンとの連携など、市域を超えてより強固なものにしてほしい。

< 齊藤委員 >

- ・広報紙を読んでいる市民は数多くいるため、自転車のまちとしてのPR強化にあたっては、定期的に広報紙に自転車関連記事やコラムの掲載を検討してみてはどうか。

< 古池会長 >

- ・自転車のまちの推進にあたって、競輪場を一般開放して自転車で走ってもらうことも方法の一つではないか。また、競輪場の開放などが難しければ、見せるスポーツなどとしてもっとPRすべきであると考えている。

< 刑部委員 >

- ・自転車のまちとしてのPRにあたり、新たな柱である「つながる」の施策にて、企業との連携についても検討していただきたい。

< 事務局 >

- ・関係機関と連携しながら、検討を進めていく。

< 齋藤委員 >

- ・ソフト事業に取り組んでいくにあたり、関係機関との連携が必要不可欠であると考えている。
- ・モニター事業に関しては、個人の自転車を利用するのか、もしくは提供した自転車でモニターを行うのかによっても、参加意欲が変化すると考える。
- ・自転車に対して関心がなかった方々に、モニター事業を通して関心を持っていただくこ

とも大切であるとする。

<古池会長>

- ・モニター対象者に自転車を提供する際には、宮サイクルステーションや自転車販売店などと連携してはどうか。
- ・モニター対象者のより良い対象者は、市役所職員であるとするため、市役所内で、PRを行いモニター事業の参加者を募ってはどうか。また、モニター事業の結果をより多くの方々にPRしていく必要があるとする。

<刑部委員>

- ・交通結節点における自転車利用の促進にあたり、LRTのトランジットセンターにレンタサイクルを設けてはどうか。

<古池会長>

- ・レンタサイクルはぜひ取り入れていただきたい。
今すすめているC&BR（サイクルアンドバスライド）のように、公共交通と連携することにより駅の利用圏が広がることにもなる。検討してほしい。

<古倉アドバイザー>

- ・つながるに関して、健康とエコにつながるものの記載が無いことから、「CO2削減につながる」、「生活習慣病の予防につながる」、「経済的につながる」といった具体的な表現を追加してはどうか。

<事務局>

- ・今後検討を進めるにあたって、参考にさせていただく。

(2)【評価指標について】

<古池会長>

- ・活動指標における自転車走行空間の整備延長に関して、国や県の整備延長なども加えた距離を記載してもよいのではないかと。

<事務局>

- ・検討させていただく。

<古池会長>

- ・矢羽根などの新たな整備手法がガイドラインで定められたことにより、今までは道路状況により整備ができなかった路線も整備可能となったことから、さらなる自転車レーンの延伸が期待できる。

<事務局>

- ・自転車走行空間を整備するにあたり、幅30cmのブルーラインや車道混在型の矢羽根整備などの手法を取り入れることで、コストを下げながら整備延長を確保することができることから、今後もさらなる整備延長が可能になると考えている。

<古池会長>

- ・中心市街地における駐輪場の利用者数を増加させるため、利用率の低い「中央一丁目・中央小北駐輪場」の無料開放なども視野に入れてはどうか。

<事務局>

- ・駐輪場の利用促進にあたり、中心市街地における駐輪場の利用のあり方を考えていく。

<古倉アドバイザー>

- ・計画の策定に向けて、引き続き努力していただきたい。